

2019年度文系チャレンジ講座（第2回）を実施しました

6月5日（水）に福祉健康科学部の工藤修一先生を講師に迎え、「社会福祉へのいざない」というテーマで、文系チャレンジ講座の第2回を実施しました。遠隔配信した白杵、安心院、大分雄城台、大分西、別府翔青、中津南、大分鶴崎、大分商業、国東、竹田、三重総合に来学受講した大分南を加え12校377名が受講しました。



最初にアイスブレイキングとして、工藤先生の「(荒唐無稽な)自己紹介」から始まりました。これは、「何を語ったか」よりも「何故(そのように)語ったか」が重要という、ソーシャルワークの視点を示したもので、その後、「社会福祉=幸せを実現するための取り組み」、「福祉社会=すべての者が幸せを実現した社会」との定義づけを踏まえ、「障害とは何か」「福祉社会の実現は可能か」等、講座の本質に進みました。

「障害と何か」との項目では、“なぜ人は空を飛べなくても困らないか”という具体的な問



いから、人にとって何が障害なのかを考え、発表した上で、障害の個人モデル・社会モデル・相互モデルの説明を受け、障害についての考えを深めるような授業構成でした。また、バリアフリーとユニバーサルデザインの相違、応益負担と応能負担のあり方や聴覚障害を持つ学生の情報保障とその課題など、具体的な事例を考えながら、社会福祉を考えるための視

点についても同様に進められました。

講座全体を通して、生徒が考えやすい問いを切り口に、生徒の思考力や表現力の育成を意識しながら、本質的な部分や内容を深化させる部分は先生が丁寧に説明するというものでした。そのため、レジメ項目ではやや難しそうに見えた内容も、講座を通し、生徒自身が自分自身でしっかり考えることで、社会福祉（入り口）について理解できたように感じられました。60分という時間が短く感じられる講座でした。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して授業がよかった」(98%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(99%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」(98%)という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」(89%)、「映像はよく見えた」(88%)という結果が出ました。また、「多くの人が幸福になるには?を考えていきたい」との感想が寄せられました。

